

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	法人の理念からホームの基本運営方針立て実践に繋げるように努めているが、入職時以降に意識づけする機会は少ない。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ④ほとんどできていない	年1回広報誌「常輝の里ニュース」を発行し地域に全戸配布している。地域の祭りに毎年バザーを出店したり、近所のコンビニやケーキ屋に気軽に出かけたりしていたが、コロナ禍以降は外出が激減している。コロナ対応の緩和に伴い、徐々に地域との交流の機会を増やせるように検討中。	・現状、やむを得ないが、5類移行後、休止していたことを再開してはどうか。 ・訪問販売、移動販売が可能か検討する。 ・地域の行事等にグループホームから参加できるようにしてはどうか。 ・QRコードやSNSを活用して広報活動していく。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の代表3名、地域包括支援センター1名、市担当課1名、理事長、施設長、管理者の8名で構成し、2か月に1回開催している。コロナ禍では書面でのやりとりとなっているが、来年度からは実開催を検討している。	・5類移行後、感染対策を講じながら、実開催していく。		
4	市町村との連携	市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議を通して、ホームの活動状況等を報告している。市と市内グループホームとの意見交換の場であるグループホーム会議もあるが、現在活動休止中である。	・市や他のグループホームと協議し、グループホーム会議の再開(実開催)に向けて検討する。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ②ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	入職時と年2回の研修を実施しており、身体拘束ゼロセミナーには毎年参加している。夜中以外は、玄関は解錠しており、出ようと思えばいつでも出られる状況である。入居者の様子を丁寧に観察に、行動制限ではない関わりを努めている。		A. 十分にできている B. ②ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	入職時や身体拘束ゼロセミナーでの研修の他、定期的にシミュレーションをして、意識づけの機会を増やしていくと良い。スタッフのストレスマネジメントも有効と思われる。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている B. ②ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	入職時に高齢者虐待防止法の研修実施。ストレスや疲労から不適切なケアが発生していないか、管理者、リーダーが注意しているとともに、「虐待の芽チェックリスト」を全スタッフが言い、振り返りや意識づけの機会としている。		A. 十分にできている B. ②ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束同様、入職時研修に組み込まれているのは良い。加えて、スタッフ同士がお互いにケアの方法を確認し合う機会を設ける事を期待する。また、ストレスや疲労を溜めないように、適切な人員配置も重要と考えられる。

7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、権利擁護に関する学びの場を、年に1回は持てるようにしている。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約書、重要事項説明書について、丁寧に説明している。報酬改定時等、変更の際にも丁寧な説明に努めている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍以降、ご家族と直接会う機会が激減している。面会時やLINEを活用し、コミュニケーションを取るようにしている。また、ホームページに意見箱を設けている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	直接の面会ができない時に、LINEを活用していたことは評価できる。今後、制限の緩和に伴い、コミュニケーションが増えることを期待する。	
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	定期的な面談に加え、日頃からコミュニケーションを密にし、要望や意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。ミーティングの機会は増やしていきたい。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	新しいスタッフでも業務がしやすいようにマニュアルを整備している。業務改善は常に意識し、取り組んでいる。処遇改善にかかる加算は、3種すべて算定し、待遇改善に充てている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	処遇改善加算を算定し、待遇改善に充てていることは評価できる。介護職員定着支援を目的とした研修等も活用しながら、職場環境の改善に努めて頂きたい。	
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年度初めに研修参加についての意向を確認している。「認知症介護実践者研修」、その他、eラーニングも活用し可能な限り研修に参加できるようにしている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	eラーニングも活用しながら、積極的に研修の機会を作っていることは評価できる。教育担当スタッフを任命し、お互いに成長できる仕組み作りも検討していただければと。	
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	滋賀県南部事業者協議会等の研修に参加しているが、リモートがメインの為、交流はあまりできていない。グループホーム会議も現在、活動休止中。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員=する側、入居者=される側ではないという考えは、入職前・入居前から丁寧に説明している。過剰介助に気を付け、暮らしの主体者として、できることをしてもらい、感謝を伝えあえる関係を意識している。			

15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	かかりつけ医も馴染みの関係と捉え、入居後も継続して通院する事を基本としているが、その他の外出先は、コロナ禍になり、ほとんど行く事ができなくなっている。コロナ対応の緩和に伴い、徐々に活動の幅を広げられないか検討中。	・コロナ禍の影響があり、今までは仕方のないことだったが、5類移行後、徐々に活動を再開していければ良い。 ・直接会うことが難しければ、ビデオレターやビデオ通話なども活用する。		
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の入居者との関わりの中から思いや望みを把握し、記録で共有している。また年数が経ち、状態変化がある方でも、以前の生活スタイルや思いを大切にしている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	本人やご家族の思い、希望等を汲み取り、計画作成担当者と担当スタッフで話し合い決めている。状態変化時や小まめな見直しは、滞りがちになってしまっている。	・状態変化時は、より家族との連携を密にし、現状に即した計画にし、本人の生活の向上に繋げる。 ・その過程、その結果により、本人と家族との関係強化に繋げる。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	家族等と直接会う機会が増えることで、意向の確認等がしやすくなることが想定され、より確実にPDCAサイクルを実践することを期待する。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	タブレットでの介護記録の入力のほか、24時間チェックシートへの記入で、必要なケアの見落としを防ぐとともに、チームでの共有に役立っている。ケアの変更時などは、連絡ノートを活用し迅速に対応している。		A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	様々な手段で必要なケアの見落としを予防し、情報共有ができていないことは評価できる。継続を期待する。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	ホームのやり方に入居者を合わせるのではなく、入居者の暮らしにスタッフが合わせられるようになってきたが、コロナ禍になり、外出や外部との交流が激減している。	・コロナ禍であっても、感染対策を講じた上で、外出や外部との交流を試みたり、代替策を検討する。 ・5類移行後、徐々に活動を再開していく。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	馴染みの方の面会や地域のふれあいまつりに出店して、ホームを知って頂く機会にしていたが、コロナ禍で活動制限中。ホームの畑、プランターの整備を地域の方に参加していただく事で、交流の機会とする事を計画中。	・ホームの畑やプランターの整備を地域の方に参加してもらうことで交流ができることは、とても良いことなので、実現してほしい。 ・5類移行後、活動の幅を広げていく。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居前のかかりつけ医の受診を継続することを基本としていますが、状態変化に合わせて訪問診療に切り替えている。主治医と連携を取り、日常生活上の留意点等を確認している。			

22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院時には早期に相談員と連携を取り、治療状況を把握し、退院に備えている。必要時、退院時カンファレンスに参加している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院に至った病状だけでなく、本人の認知症状やその対応方法を共有することで、入院中の安心感にも寄与と思われる。引き続き、継続を期待する。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時にホームの方針として看取り対応していないことを説明している。重度化した場合、ご家族等とも相談の上、特養の申し込みを勧め、申込はホームで代行している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ホームでできること、できないことを説明していることは評価できる。重度化したとの判断、線引きは難しい側面もあり、早い段階から丁寧な説明を行い、信頼関係を構築していくことが重要と考える。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	昨年、非常勤で看護師を配置しており、医療面の助言が得られやすい環境となっている。看護師の協力を得て、急変時の対応方法を学ぶ機会を作っている。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	BCP策定中。非常時の電源として、発電機2台準備。食材等の在庫は常時多めにしている。地域との協力体制は十分に築けていないので、課題と認識している。	・災害対策の取り組みが進んでいる施設に学ぶ。 ・地域とどのように協力体制を築くことができるか、関係者間で話し合う。 ・年度毎に計画を立て、進めていく。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	BCP策定後、地域とどのように協力関係を築いていくのか、地域や関係者へ周知することも重要。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の思いを尊重したケアやフォローを心掛けている。特に、入浴や排泄時は、羞恥心に配慮したケアをしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	思いを尊重し、プライバシーを守ることは、ケアをする上で基本的で大事なことなので、スタッフ一人一人が今後も意識して取り組むことを期待する。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ホームやスタッフの都合に合わせてではなく、入居者のペース、習慣等に合わせるようにしている。自身で訴えることが難しい場合、生活歴や入居後の関係で得た情報を基にしている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事に関する家事(洗米、食材刻み、食器洗い、台拭き等)はスタッフが全てにするのではなく、できる方に参加してもらっている。誕生日には事前に好みを聞き当日のメニューを決めている。以前は、適宜外食等もしていたが、コロナ禍では控えている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	できる方にはできる家事と一緒にすることは、とても良い取り組みなので継続を期待する。食べることは、一番の楽しみの方も多く、旬のものを提供することで、季節感を味わうことにも繋がるため、食の質の向上にも取り組んで頂きたい。

29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	咀嚼、嚥下状態により、ソフト食、ムース食、トロミを使用している。毎日の水分摂取量観察、毎月の体重測定により、提供する量や種類を柔軟に変化させている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	朝夕の口腔ケアは一人一人の状態等に合わせて行っている。状態や希望により、毎月、訪問歯科診療にて専門的口腔ケアをうけている方が、現在5名いる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	口腔ケアは、とても大切なので、取り組みの継続を期待する。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄パターンをチェックし、表情や行動等からタイミングを図り支援している。安易に下剤に頼らずオリゴ糖などを活用し、便秘対策をしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別対応の継続を期待。更に、活動量を増やすことでの便秘対策やおむつが外れるような支援にも期待したい。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	基本、毎日いつでも入浴できるスタンスではいるが、何らかの支援が必要な方は、2日に1回は入浴できるように勧めている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活リズムを考え、なるべく日中の活動を促すと同時に、状況に合わせて臥床を勧めている。本人のペースに合わせ、一律の起床・就寝時間とはしていない。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	薬の説明書きで、薬の目的、用法等を共有している。薬の変更等があった場合、注意深く観察状態等を記録、共有している。多くの方は近くの調剤薬局にまとめ、気軽に相談できる関係ができています。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	現状の取り組みを継続できるように期待するとともに、服薬管理方法や与薬方法の見直し、事故対策にも期待したい。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の会話から楽しみを探り、ご家族に話を聴くなどして把握している。特に女性の方は何らかの家事に参加している方も多く、役割として定着している。	・趣味や特技を続けられる方には、是非それが継続できるようなサポートができると良い。 ・ホーム内での男性の役割とは？		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	屋外への散歩を誘ったり、希望があれば買い物や外食したりしていたが、コロナ以降、外出は激減している。今後、徐々に活動を広げていけるよう検討中。	現状は、やむを得ないが、感染対策を講じた上での外出や5類移行後、活動を上げていくことを検討する。		

		人々と協力しながら出かけられるように支援している					
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	預り金としてホームで管理しており、毎月、出納帳をご家族へ報告している。それとは別に自身で所持している方も数名いる。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ホームに公衆電話はないが、必要時ホームの電話やLINE電話を利用してもらっている。携帯電話を所持している方もいる。必要時、手紙のやり取りの支援もしている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自室が認識しやすいように暖簾や目印代わりにものを置いている。当たり前の生活空間を意識しながら、誤認や不安要素を和らげる配慮をしている。季節に合わせた飾りつけや雑貨等を用意しているが、「大人」の空間として相応しいことに注意している。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	飾りつけや雑貨等の配置については、対応可能な入居者と一緒に相談しながらできると良い。季節感を感じながら過ごすことはよいことなので、継続を期待する。	
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人との会話や家族からの情報をもとに、現状とのバランスを図りながら、望む暮らしに近づけるように支援している。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居前に前に「生活歴、生活習慣聞き取りシート」を使って情報を得て、コミュニケーションやケアに活かしている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の状態観察(バイタルチェック)を主治医へ報告し、療養上のアドバイス等の指示を受け、ケアに繋げている。週3回程度は、看護師による健康管理も行い、医療ケアの充実を図っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	新たに看護師が配置され、医療ケアの充実が図られていると思われ、続けてほしい。	

43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ホーム、スタッフの都合を押し付けるのではなく、共同生活とのバランスを取りながら、本人の好むペースで暮らせるように配慮している。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時になるべく馴染みのものを持参して頂くようお願いしている。入居後も本人と相談しながら、作品を掲示するなど、カスタマイズしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活習慣が継続できるような支援、安心できるような環境支援は大切なので、継続を期待する。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本来は、希望により買い物や外食等に出掛けていたが、コロナ禍になり、外出自体が激減している。	コロナ禍では仕方なかったが、5類移行後、徐々に活動を再開することを検討する。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今までの生活習慣や聞き取りにより、ホーム内の家事等の活動を提供している。その内容は、状態変化等により、適宜変更している。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	ホーム内の馴染の方やスタッフと会話する機会を積極的に設けている。アルバムやタブレットを活用し、話のネタにすることもある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	5類移行後の活動場面の改善に期待する。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ前までは近隣のコンビニやケーキ屋さんによく出掛けており、また、地域のふれあいまつりでは出店もしており、地域の方と交流する機会があったが、現在は減っている。	感染対策を講じた上で、あるいは、5類移行後に地域との交流機会を増やしていく事を検討する。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	ホームの中の生活では、ある程度本人のペースに合わせ、主体的に暮らす支援が出来ていると思われるが、コロナ禍で特に地域やご家族との繋がりや交流が激減している。今後は徐々に生活を広げていけるように検討中。	季節も良くなってきたので、屋外での交流から始めてみる。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	コロナ禍では難しいことが多かったと思われるが、今後は対策を講じながら、地域や家族との交流の機会が増えるように期待する。